

日本独文学会第66回総会
春季研究発表会

2012年5月19日(土)・20日(日)
第1日 午前10時より
第2日 午前10時より

会場 上智大学
(四谷キャンパス)

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
Tel: 03-3238-3680 (ドイツ文学科事務室)
e-mail: tagung2012sophia@jgg.jp

参加費: 1500円 (学生, 常勤職のない会員は1000円)

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル501
Tel/Fax: 03 - 5950 - 1147
E-Mail (メールフォーム): <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第 1 日 5 月 19 日 (土)

開会の挨拶 (10:00～10:05)

A 会場 (12 号館 5 階 502 教室)

Heinz Hamm

総 会 (10:05～11:30)

A 会場 (12 号館 5 階 502 教室)

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 会長挨拶 | 室井 禎之 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 初見 基 |
| 4. 渉外委員会報告 | 前田 良三 |
| 5. 会計報告 | 糸川 麻里生 |
| 6. 編集委員会報告 | 田村 和彦 |
| 7. 企画報告 | 浜崎 桂子 |
| 8. 広報委員会報告 | 高田 博行 |
| 9. データベース委員会報告 | 河崎 靖 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 増本 浩子 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 田中 慎 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 岡本 順治 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 北島 玲子 |
| 15. ドイツ語教育部会報告 | 吉満 たか子 |
| 16. 支部報告 | |

- 議事
1. 年度会費の学生割引について
 2. ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査について
 3. 2011 年度決算書および 2012 年度予算案について
 4. 支部選出理事の囑任について
 5. 監事の囑任について
 6. その他

会員意見開陳

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会（11:35～12:35）

A 会場（12号館5階502教室）

ドイツ語教育部会総会（12:30～13:00）

C 会場（12号館3階302教室）

招待講演（13:00～14:00）

B 会場（12号館4階402教室）

Stephan Elspaß (Universität Augsburg):

„Sprache und Diskriminierung“

シンポジウム I（14:30～17:30）

A 会場（12号館5階502教室）

「模倣」概念再考—ミメーシス的なものの創造的契機について

**Wider die Gleichsetzung von *mimesis* und *imitatio*. Zum kreativen Moment
des Mimetischen**

司会：河野 英二

1. 「自由な芸術模倣における夢」—ヘルダーリンの後期抒情詩における自然「模倣」について 小野寺賢一
2. 「演技」と「批評」—フリードリヒ・シュレーゲルの詩学における模倣のモチーフについて— 胡屋 武志
3. 「私はざわめきが歌い続ける貝殻」—諷刺家カール・クラウスにおけるミメーシス問題— 河野 英二
4. 『異性装者たち』—異性模倣による「男／女らしさ」の攪乱— 嶋田 由紀
5. 映像が言葉を模倣する？—〈文学作品の映画化〉論序説 柳橋 大輔

シンポジウムⅡ (14:30～17:30)

B会場 (12号館4階402教室)

関口文法の射程－主著『冠詞』のダイジェスト版をてがかりにして

Tragweite der Sekiguchi-Grammatik

－ Reflexionen zur gekürzten Fassung seines Hauptwerkes „Der Artikel“

司会：山下 仁

- | | | |
|----------------------------------|----|----|
| 1. 「冠詞」再考にむけて：『冠詞』ダイジェスト版について | 山下 | 仁 |
| 2. 『冠詞』とアスペクト：機能的言語記述に見る関口の現代性 | 田中 | 慎 |
| 3. 関口文法と語彙意味論的手法との接点：コピュラ文の分析を例に | 高橋 | 亮介 |
| 4. 関口文法の説明法：意味形態論との関連から | 菅谷 | 泰行 |
| 5. 「話（わ）Sprechenの文法」としての関口文法 | 佐藤 | 清昭 |

シンポジウムⅢ (14:30～17:30)

C会場 (12号館3階302教室)

ドイツ語音声教育の現状と可能性

Phonetik im Deutschunterricht: Status quo und Möglichkeiten

司会：新倉真矢子

- | | | |
|---|-------------|-----|
| 1. ドイツ語音声教育の実態調査の結果 | 正木 | 晶子 |
| 2. 音変化が生成に与える影響と音声教育 | 粕谷 | 麻里乃 |
| 3. 話しことばの意味・機能と音声－ドイツ語心態詞の韻律的特徴およびその習得－ | 生駒 | 美喜 |
| 4. 日本人ドイツ語学習者を対象にした発音訓練システムの開発背景とその問題点 | 林 | 良子 |
| 5. Ein Vorlese-Diktat-Test: betonte und notierte Schlüsselwörter weisen auf Ausspracheprobleme und Probleme von Textbuch-CDs hin. | Markus Rude | |
| 6. 「音声学習ストラテジー」を用いた音声習得の可能性 | 新倉真矢子 | |

口頭発表：語学／ドイツ語教育（14:30～17:45）

D会場（12号館3階301教室）

司会：高橋由美子, Reinold Ophüls-Kashima

1. 話法の助動詞としてのドイツ語 *dürfen* とチェコ語 *smět* の類似性：現代語と古期聖書訳からの考察
油尾 昌輝
2. 現代ドイツ語の程度副詞を対象としたテキストマイニングの試み：20世紀における時系列変化と口語／文語の差異について
今道 晴彦
3. ドイツ語形容詞における経験主のコード化—構文文法的アプローチ
宮下 博幸
4. 属格・対格を支配するドイツ語形容詞の統語的振る舞いについて—相関詞との関係を中心に—
信國 萌
5. „Wir waren wandern.“ – Der Absentiv im Deutschunterricht für AnfängerInnen.
Bertlinde Vögel

口頭発表：文学1（14:30～17:05）

E会場（12号館2階201教室）

司会：高橋 明彦, 徳永 恭子

1. 『散文ランスロット』における英雄像—聖杯騎士ガラートは「救世主」なのか？—
浜野 明大
2. 『陽気なヴッツ先生』における語り手ジャン・パウルの誕生
嶋崎 順子
3. ホフマンスタール『アンドレーアス』における手紙の位相
加藤由美子
4. 『メルヒェン』としての『はてしない物語』
川村 和宏

ポスター発表 1 (13:00~14:30)

F会場 (12号館 2階小スペース)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

Einsatzmöglichkeiten von Deutsch und Japanisch als
Unterrichtssprachen im Deutschunterricht in Japan:
Ergebnisse einer Fallstudie

Axel Harting

ポスター発表 2 (13:00~14:30)

F会場 (12号館 3階小スペース)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

クルト・ヨースが果たしたバレエと表現舞踊の融合

照井夕可里

ドイツ語教育部会「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表
(14:30~17:30) G会場 (12号館 4階 401教室)

ブース発表 1 (14:00~15:30)

H会場 (7号館 4階 0413教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

「学びを学ぶ」ドイツ語授業を目指して
—自律学習を促す3つの授業案

池谷 尚美/齊藤 公輔
西出佳詩子/村田 奈保
田原 憲和/中丸 禎子

ブース発表 2 (14:00~15:30)

I会場 (7号館 4階 0415教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

ドイツ語方言からの拡充言語ルクセンブルク語と、多言
語社会ルクセンブルクの現在

小川 敦
西出 佳代
木戸 紗織

ブース発表 3 (16:00～17:30)

H会場 (7号館 4階 0413教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

《ナクソス島のアリアドネ》におけるツェルビネッタの
マリオネット性 — クライスト《マリオネット劇場につ
いて》を手掛かりとした文学的アプローチと解剖学的ア
プローチ —

野口 方子
山口 康昭

懇親会 (18:00～20:00)

会場：主婦会館プラザエフ 7階カトレア

会費：6000円 (学生, 常勤職のない会員は 4000円)

第 2 日 5 月 20 日 (日)

シンポジウムⅣ (10:00～13:00)

A 会場 (12 号館 5 階 502 教室)

ポストドラマ演劇における現代戯曲の可能性

Moderne Dramen im Zeitalter des postdramatischen Theaters

司会：高橋 慎也

- | | |
|--|-------|
| 1. ファルク・リヒターの戯曲に見られる 90 年代以降の劇作家の特徴 | 新野 守広 |
| 2. 「テキストに存在する限り、すべては上演可能である。」
—ユルゲン・ゴッシュとローラント・シンメルプフェニヒの演劇美学 | 大塚 直 |
| 3. デーア・ローアー —「ドラマ演劇」の進化形— | 三輪 玲子 |
| 4. ルネ・ポレシュのアンチ再現型の戯曲とポストドラマ演劇 | 高橋 慎也 |

シンポジウムⅤ (10:00～13:00)

B 会場 (12 号館 4 階 402 教室)

文形成とモダリティの相互関係

Satzaufbau und Modalität

司会：森 芳樹

- | | |
|---|-----------------|
| 1. 主文機能としての動詞後置節の構造と意味 (Satzmodus) の関連 | 吉田 光演 |
| 2. 日本語連体修飾節とドイツ語関係節の相違を導く機能的原理 | 城本 春佳 |
| 3. Redundante Modalverben in finiten und infiniten
Komplementsätzen von Verben und Nomen | Ingrid Kaufmann |
| 4. 量化としてのモダリティ, 指示としての証拠性 | 岡野 伸哉
森 芳樹 |

口頭発表：文学2 / 文化社会 (10:00～12:35)

D会場 (12号館3階301教室)

司会：浅見 昇吾， 糸田 文

1. 都市と人間—デープリン『ベルリン・アレキサンダー広場』について 時田 郁子
2. 東ドイツ史の終焉・物語の迷走・記憶の連鎖
『ある古い走行録』(グリューンバイン) を手がかりに 宮崎 麻子
3. 〈労働〉のメタモルフォーゼ—アレクサンダー・クルーゲの「対抗公共圏」論をめぐって 竹峰 義和
4. ガンゼル『ウェイブ』試論—教室の日常にひそむファシズム— 木本 伸

口頭発表：文学3 (10:00～12:35)

E会場 (12号館2階201教室)

司会：中村 朝子，岩崎 大輔

1. ティークの鉱山実体験と『ルーネンベルク』解釈—主人公の最後の形姿を巡って 山縣 光晶
2. 不可知のものへの試み—マイリンクの初期短編における近代解剖学と錬金術— 中岡 翔子
3. 18世紀末ドイツ文学における「ウラーニア」モチーフ—ハインゼ，シラー，ヘルダーリン 志村 哲也
4. キリストの表象と詩の断片化—ヘルダーリンの後期讃歌『パトモス』の改稿について 畠山 寛

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」 展示・発表
(10:00～13:00) G会場 (12号館4階401教室)

ブース発表 4 (10:00～11:30)

H 会場 (7号館 4階 0413 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

Fehler als Indikatoren für Fortgeschrittenheit? - Eine
Untersuchung zu Wortstellungs- und Artikelfehlern in schriftlichen Texten japanischer Deutschlerner. Angela Lipsky
Makiko Hoshii

ブース発表 5 (11:30～13:00)

I 会場 (7号館 4階 0415 教室)

(ブース発表は途中での出入り自由です。)

ドイツ語の発音学習教材について
～ステップバイステップの学習のために 中川 純子

閉会の挨拶 (13:00～13:05)

A 会場 (12号館 5階 502 教室)

吉田 有

総会・研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による各種展示が行われます。(書籍展示会場：12号館 1階 102 教室)